

Routing File Generator 取り扱い説明書

<u>目次</u>

1.	概要		. 1
	1.1. 使用語	環境	. 2
2.	セットア	ップ	. 3
	2.1. ソフ	トウェアのセットアップ	. 3
	2.2. Acro	bat Reader のインストール	. 3
3.	本製品の	目的	. 4
	3.1. 本製	品の目的	. 4
4.	画面説明		. 5
	4.1. Rout	ing File Generator の起動	. 5
	4.2. Rout	ing File Generator の終了	. 5
	4.3. 各ウ	ィンドウの説明	. 6
	4.3.1.	コンフィグレーションウィンドウ	. 6
	4.3.2.	ルーティング設定ウィンドウ	. 9
	4.3.3.	コード生成ウィンドウ	17
	4.3.4.	テーブルシミュレートウィンドウ	22
	4.3.5.	シンボル設定ダイアログ	27
5.	メニュー	とツールバーの説明	32
	5.1. 「 F	ile」メニュー	32
	(1)	「New」	32
	(2)	「Load」	33
	(3)	「Save」	33
	(4)	「Save as」	33
	(5)	۲Сlose」	34
	(6)	Read Log File	35
	(7)	「Exit」	36
	5.2. F E	dit」メニュー	37
	(1)	「Undo」	37
	(2)	Redoı	37
	(3)	「Cut」	37
	(4)	ГСору」	37
	(5)	۲Раste」	38
	(6)	r R e n a m e N o d e 」	38
	5.3. ^r C	onfiguration」メニュー	39
	(1)	Node Configuration」	39

	(2)[Table Configuration] 20
	(2) TADIE CONTIGUIACIONJ
	5.4. 「Generation」メニュー
	5.5. 「Simulation」メニュー
	5.6. 「Symbol」メニュー
	5.7. 「Help」メニュー
	(1)「Manual」40
	(2) ^r About」40
	5.8. 「Configuration」ボタン40
	5.9. 「Routing ID」ボタン41
	5.10. 「Generation」ボタン41
	5.11. 「Simulation」ボタン41
6.	エラーメッセージー覧
7.	出力ファイルの説明
8.	関数の使用方法

1.概要

本書は、Routing File Generatorの取り扱いについて説明します。

1.1.使用環境

本製品を使用するためには次のものを用意して下さい。

• ハードウェア

パーソナルコンピュータ : Windows95 が動作するIBM/PC互換機。

• ソフトウェア

0 S	:	Microsoft Windows95、Microsoft	Windows98
その他	:	Adobe Acrobat Reader Ver.3.0	
		(マニュアルの表示に使用します。)

2.セットアップ

2.1.ソフトウェアのセットアップ

エクスプローラ等でフロッピーディスク内の Setup.exe を起動してください。

2.2. Acrobat Reader のインストール

マニュアルを見るためには Acrobat Reader が必要です。Acrobat Reader がインストール されていない場合はこれをインストールしてください。

3.本製品の目的

3.1.本製品の目的

受信したメッセージに対し全てユーザプログラムでID判定するのではなく、あらかじめ作成しているテーブルを参照してメッセージのルーティングを行えるような、テーブルを生成します。

4. 画面説明

4.1.Routing File Generator の起動

Windowsのスタートメニューから【プログラム】 【CAN-TOOL】

【Routing File Generator Ver.0.9】をクリックするとプログラムを起動できます。

プログラム起動後、以下の画面が表示されます。

🔒 Rout	ting File	e Gene	rator[C:¥Pr	ogran	n File	s¥M	SC¥R	loutin	g Fil	e Ger	nerat	or¥te	st.ofg]							
File(<u>F</u>)	Edit	<u>E</u>) C	onfigu	uration	n(C)	Ger	herate	e(<u>G</u>)	Sim	ulati	on(L)	Sy	/mbol	S	Help	(H)	 	 	 	 		1
Config	uration	Rou	ting II	D	Gen	erate		Simu	uration	n												
liverne and																						
																						- Mariana (Maria)
Nilline and A																						

最初に起動する時は Configuration File がないため、タイトル「Routing File Generator」の 右側に、前回読み込んだ Configuration File のパス名を表示いたしません。

4.2.Routing File Generator の終了

File(<u>F</u>) Exit(<u>X</u>)を選択すると確認メッセージが表示されます。確認メッセージで、 「OK」を選択すれば本アプリケーションを終了することができます。

4.3.各ウィンドウの説明

4.3.1.コンフィグレーションウィンドウ

コンフィグレーションウィンドウは、以下の2つの領域から成り立っています。 ・入力(ソース)の有効・無効、出力(デスティネーション)の有効・無効、入出力の I/F、ノードの名称、使用フィールド、各ルーティングの有効・無効を設定する 領域(Select source and destination node領域)

・ルーティングの判別に使用するフィールドを、ID以外に2データまで指定することのできる領域(Select decision fields of CAN standard frame 領域)

Routing File Generator[C:#Pro	ogram Files¥MSC¥Routing File Generator¥test.cfg]	_ 🗆 🗵
Configuration Routing ID	Generate Simulation Grand Symbol Strep(17)	
Configuration Window		
Sourse × 8 -	Destination × 12 💌	
	CANO	
	CAN1	
CANS	CAN2 CAN2	
CAN4	CAN4	
CAN5	CAN5	
CAN6	CANG	
	CAN7	
	USER2	
If you want to change	USER1	
any source name, please click right	USER	
button of mouse.	NM	
Select desiries fields of CAL		
ID(115it)		
		na nana ara

- 1.ソース数、デスティネーション数の設定
 - ・上のコンボボックスで設定した数だけ、ボタンが画面に表示されます。
 - ・ソース数、デスティネーション数はそれぞれ12、16まで設定することができます。
 - ・ソースのノード数の増減に合わせて、デスティネーションのノード数も増減します。
 デスティネーションのノード数は、(ソースのノード数+2)から(ソースのノード数+4)
 までの範囲で設定できます。
 - ・経路設定後にノード数を減少させた場合は次のようになります。
 - ・"USER1"、"USER2"が共に表示されている場合は、"USER2" "USER1" 最下位の ノードの順に、そのデスティネーションに対する経路がそれぞれ削除されます。
 - ・"USER1"のみが表示されている場合は、"USER1" 最下位のノードの順に、その デスティネーションに対する経路がそれぞれ削除されます。
 - ・"USER1"、"USER2"が共に表示されていない場合は、最下位のノードから順に、 そのデスティネーションに対する経路がそれぞれ削除されます。 "USER"、"NM"の両ノードは、ノード数を減少させても削除されません。
- 2. ノード名変更
 - ・ウィンドウを右クリックするか、メニューの「RenameNode(<u>R</u>)」を選択すると下図 のようなノード名設定のダイアログが表示されます。ノード名を変更する場合は、このダイ アログから変更することができます。変更したノード名は変更後に各画面に反映されます。 表示されているノードに対してのみ、ノード名を変更することができます。
 - ・ButtonNoは、0は1番上のノード名、1は上から2番目のノード名、....、11は上から
 12番目のノード名に対応しています。
 - ・右クリックした場合はクリックした位置上のノード名が、メニューを選択した場合は、ソース
 を選択している場合はそのノード名が、ソースを選択していない場合は一番上のノード名が初期表示されます。
 - ・ソース、デスティネーションのノード名は、デフォルトでそれぞれCAN0~CAN11、
 CAN0~CAN11・USER・NMとなっています。

ノード名はテーブルファイル名に組み込まれるので、ノード名には、半角英数字・アンダー バーのみ使用することができます。その他の文字や記号を用いるとエラーとなります。

Rename Node	×
ButtonNo	ButtonName CAN0
ОК	CANCEL

- 3.ルーティング経路設定
- ・ソース側、デスティネーション側のボタンによってルーティング経路を設定し、経路は矢印の色で表示します。
- ・ソース側のノードボタンは以下の操作を行います。
- 使用 / 不使用 : ボタンの左側にあるチェックボックスで指定します。
- 有効/無効表示: 左側のチェックボックスにチェックが入っている場合、そのボタンは有 効表示となり、チェックが入っていない場合、そのボタンは無効表示に なります。なお、チェックを外しても経路は削除されません。
- 青ボタン表示 : 有効表示中のボタンを押すと青ボタン表示になり、そのソースが選択さ れていることを表します。
- ・デスティネーション側のノードボタンは以下の操作を行います。
 - 使用 / 不使用 : ソース側ボタンの左側にあるチェックボックスで指定します。
 - 有効/無効表示: ソース側ボタンの左側のチェックボックスにチェックが入っている 場合、そのボタンは有効表示となり、チェックが入っていない場合、 そのボタンは無効表示になります。なお、チェックを外すと、その デスティネーションに対する経路が削除されます。

・ボタンの横に出る矢印は以下のような動作をします。

ブリンク表示 : 1つ選択されている(青ボタン表示になっている)ソースに対して、 経路を持っていることを表します。有効表示中のデスティネーション 側ボタンを押すと、そのソースに対して経路を持ちます。その際、ソ ース側ボタンの右側とデスティネーション側ボタンの左側にピンクの 矢印がプリンク表示されます。

> ソースが1つも選択されていない場合に有効表示中のデスティネー ション側ボタンを押した場合はエラーメッセージが表示されます。

- 黄色表示 : 各ソースに対して1つでも経路が設定された場合を表します。他の ソースを選択すると、それまで選択されていたソース側ボタンの右側 とデスティネーション側ボタンの左側の矢印が黄色表示になります。
- 4.フィールド設定
 - 「ID]と[Data]×8のボタンの色によって使用するフィールドを表示します。
 - [Data]は最大2つまで選択することができます。

3つ目の [D a t a] を選択するとエラーメッセージが表示されます。

・[Data]のボタンは押すと青ボタンになります。使用時は青ボタン表示になります。

4.3.2.ルーティング設定ウィンドウ

各ルーティングID、および有効・無効データを設定するウィンドウです。

- ・[Add]ボタンはタブで選択されているソースに対して、経路が設定されている場合は 有効表示で、経路が一つも設定されていない場合は無効表示になります。
- ・[Modify]ボタン、[Delete]ボタンはデフォルトでは無効表示で、行選択が 行われると有効表示になります。

a	Routing File Ge	enerator[C:¥P	rogram Files	¥MSC¥Rout	ing File Ger	nerator¥te	st.ofg]			_ 🗆 🗵
Fi	le(<u>F)</u> Edit(<u>E</u>)	Configuratio	on(<u>C</u>) Gene	rate(<u>G</u>) Si	mulation(<u>(</u>)	Symbol	I(<u>S</u>) Help	θ		
С	onfiguration F	Routing ID	Generate	Simurati	ion					
E	Routing ID Wi	ndow							_ [
	CAN1 CAN4	LCAN7								
	1	1 1							_	
		Sou	irce					Destination		
	Symbol	ID	Data-1	Data-2	/	CAN1	CAN4			
	A/C	005 00a	45 cc	96 5d		2	ō			
	ACC_ON	010	15	62		lā –	ā			
	Grw	020	11	04 33		lŏ –	ž			
	A/B	025	44	9		-	0			
	1					1				
	Add	Mor	GFG	Delete		umbol	1			
	<u></u>	<u></u>		<u>10</u> 2-0-02		,	-			
Ľ.										
I										

- 1.タブ表示
 - ・コンフィグレーションウィンドウにおいて、有効表示となっているソースのみ表示されます。
 - ・選択されているソースを持つタブが選択されます。
- 2.ソース側ID表示
 - ・入力されたID、Data1、Data2がソートされた状態で表示されます。
 - ・Dataの選択数に関係して、Data1、Data2が空欄になる場合があります。
 - ・シンボル欄には、入力されたIDに対してシンボルが定義されていればシンボルが表示 されます。未定義の場合は空欄になります。
 - ・最下位行が I D 追加のために空白になっています。

- 3. デスティネーション側ルート有効・無効表示
 - ・コンフィグレーションウィンドウにおいて選択されたデスティネーションに対する有効・
 無効が表示されます。
 - ・セルをダブルクリックすることで、""(有効)、"-"(無効)が変わります。
 - ・IDを追加・修正した場合は、デフォルトで"-"(無効)が入力されます。
- 4.ID・Dataの入力

ID・Dataを入力する方法として、[Add]ボタンを押してダイアログから入力する 方法と、ソース側の最下位行を左クリックし直接入力して[Enter]キーを押して入力 する方法があります。

・ [Add]ボタンを押してダイアログから入力する場合

[Add]ボタンを押すと、次のようなダイアログが表示されます。

Add			×
Symbol	ID	Data-1	Data-2
	[HEX:XXXH BIN:XXX]		
	ОК	CANCEL	

・IDは16進数または2進数で入力します。16進数の場合は最後にHまたはhを つけて入力します。入力できる範囲は[0,7ffH]です。

・Data-1、Data-2は共に10進数または16進数で入力します。

16進数の場合は最後にHまたはhをつけて入力します。入力できる範囲は[0,ffH]です。 また、Dataについては以下の制限があります。

Dataの選択数が0の場合 - Data - 1、Data - 2共に入力不可
Dataの選択数が1の場合 - Data - 1入力可、Data - 2入力不可
Dataの選択数が2の場合 - Data - 1、Data - 2共に入力可
Data - 1、Data - 2を[0,ffH]の範囲外で設定すると、エラーになります。
また文字等を入力した場合や、Data - 1未入力でData - 2を設定した場合も
エラーとなります。

 ・[OK]ボタンを押すと、ダイアログに入力した値が適していれば、ソートして入力 されます。デスティネーション側には入力行に対して"-"が入力されます。
 入力したIDが文字、10進数表記、未入力、[0,7ffH]以外の範囲の値をとっている 場合に[OK]ボタンを押すとエラーになります。
 入力した値が重複している場合は、確認メッセージが表示されます。
 確認メッセージで「はい」を選択すると重複した値が入力されます。



[Cancel]ボタンを押すとダイアログに入力した値は破棄されます。

#	Routing File G	ienerator[C:¥P	rogram File	s¥MSC¥Ro	uting File Ge	nerator¥t	test.ofg]		_ 🗆 ×
Fil	e(<u>F</u>) Edit(<u>E</u>)	Configuratio	on(<u>C</u>) Gen	erate(<u>G</u>)	Simulation (L)	Symb	ol(<u>S</u>) Help	Έ	
Co	onfiguration	Routing ID	Generate	Simur	ation				
F	Routine ID W	lindow							
	CANI CAN	4 CAN7							
		Sou	Jrce	1				Destination	
	Symbol	I ID	Data-1	Data-2	T .	CAN1	CAN4		
	A/C	005	45	96		0	~		
	ACC_ON	00a 010	сс 15	Ба 62		-	9		
	G/W	015 020	47 11	84 33		8	ō		
	A/B	025	44	9		Ĭ-	0	_	
	1					1			
11	Add	Mar	lify	Delete		wmbol	1		
	<u></u>			2-1-1-		,]		
É									

・直接入力して[Enter]キーを押して入力する場合

ソース側の最下位行を左クリックすると、ID、Data-1、Data-2がそれぞれ 入力できるようになります(下図参照)。IDの入力における注意点やDataの制限に ついては、 [Add]ボタンを押してダイアログから入力する場合と同じです。

- ・ID、Data-1、Data-2の入力を行うには、それぞれを左クリックする必要 があります。それ以外の部分を左クリックしても入力できません。
- ・入力後、[Enter]キーを押すと、入力した値が適していれば、ソートして入力 されます。
- ・[Enter]キーを押す前に最下位行以外の行を選択したり、他の動作をしたりすると 入力された値は破棄されます。
- 5.ID・Dataの修正

ID・Dataを修正する方法として、[Modify]ボタンを押してダイアログから修正す る方法と、既存のID・Dataの箇所をダブルクリックして直接修正して[Enter] キーを押して修正する方法があります。

・[Modify]ボタン押してダイアログから修正する場合
 [Modify]ボタンを押すと、選択したID・Dataがダイアログに表示されます。
 ただし、ID・Data1・Data2は最後にHがついた状態で表示されます。
 また、そのIDに対してシンボルが定義されていればシンボルも表示されます。(図参照)

Ei	Routing File Gener le(F) Edit(E) Co	ator[C:¥Pro	gram Files (<u>C</u>) Gene	¥MSC¥Routin erate(<u>G</u>) Sim	g File Ger ulation(L)	nerator¥te Symbo	est.ofg] I(S) Helpi	θ	
С	onfiguration Rout	ting ID	Generate	Simuratio	n				
E	Routing ID Windo	w							- 🗆 🗡
	CAN1 CAN4 C	AN7							
	Г	Sourc						Destination	
	Symbol	ID	Data=1	Data-2		CAN1	CAN4		
	ACC ON	003 00a 010	45 cc 15	50 62		Ĕ	ō		
	G/W	015 020	47 11	84 33		8	ō		
	A/B	025	44	9		-	0		
	I					L			_
	Add	<u>M</u> odif	y	<u>D</u> elete	s	ymbol			
L									

[Modify]ボタンを押す

Modify			×
Symbol G/W	ID 15H	Data-1 47H	Data-2 84H
	[HEX:XXXH BIN:XXX]		
	ок	CANCEL	

- ・ダイアログの中でID・Dataの修正を行い、[OK]ボタンを押すと、修正した値が 適していればソートして入力されます。値が適していない場合については、
- 「4. ID・Dataの入力 [Add]ボタンを押してダイアログから入力する場合」 を参照して下さい。Dataに関する制限についても同様です。

デスティネーション側の設定内容は修正されません。

- ・[Cancel]ボタンを押すと、修正した値は破棄され、ソース側には元の値が表示され、 デスティネーション側は元の設定内容が表示されます。
- ・[OK]ボタンを押しても、[Cancel]ボタンを押しても、[Modify]ボタン、
 [Delete]ボタンは共に無効表示になります。

- ・既存のID・Dataの箇所をダブルクリックして修正する場合
 既存のID・Dataの箇所をダブルクリックすると、そのID・Dataのみ修正する
 ことができます。
- ・修正後[Enter]キーを押すと、修正した値が適していればソートして入力されます。 値が適していない場合については、「4.ID・Dataの入力-[Add]ボタンを押し てダイアログから入力する場合」を参照して下さい。Dataに関する制限についても同様 です。デスティネーション側の設定内容は修正されません。
- (注)[Enter]キーを押さなければ、修正内容は反映されません。

File(E) Edit(E) Configuration(C) Generate(G) Simulation(L) Symbol(S) Help(H)
Configuration Routing ID Generate Simuration
Routing ID Window
CANT CANT CANT
Source Destination
Symbol ID Data-1 Data-2 CAN1 CAN4
A/C 005 45 96 O -
ACC_ON 010 15 62
G/W 15H 47 84 O O 020 11 33 O -
A/B 025 44 9 - O
Add Medify Delete Suphel

- 6.ID·Dataの削除
 - ・ID・Dataを削除する場合は、削除したいID・Dataをもつソース側の行を左クリックし、[Delete]ボタンを押します。[Delete]ボタンを押すと、そのID・Data・Symbol(定義されている場合のみ)がソース側から削除され、デスティネーション側の有効・無効表示も削除されます。
 - ・[Delete]ボタンを押して値を削除した後、[Modify]ボタン、[Delete]
 ボタンは共に無効表示になります。

₽	Routing File G	enerator[C:¥Pro	gram Files	¥MSC¥Routin	g File Ger	nerator¥t	est.ofg]	4.5	_ 🗆 ×
File	≥(<u>F)</u> Edit(<u>F</u>)	Configuration	(<u>C</u>) Gene	eratel <u>G</u>) Sim	ulation(<u>L</u>)	Symbo	ol(<u>S</u>) Help	(H)	
	onfiguration	Routing ID	Generate	Simuratio	n				
	Routing ID W	indow							
	CAN1 CAN4	4 CAN7							
		Sour						Destination	
	Symbol	ID	Data=1	Data-2] /	CAN1	CAN4		
	A/C	005 00a	45 cc	96 bd		<u> </u>	ō		
	ACC_ON	010	15	62		-	ě		
		020	11	33		ŏ	ě		
		020	44	3			\sim		
	<u>A</u> dd	<u>M</u> odif	y	<u>D</u> elete	s	ymbol			
L									

[Delete]ボタンを押す

🔒 File	Routing File Ga (E) Edit(E)	enerator[C:¥Pro Configuration	gram Files (<u>C</u>) Gene	¥MSC¥Routine erate(<u>G</u>) Sime	g File Ger ulation(L)	nerator¥t Symbo	est.ofg] ol(<u>S</u>) Help	Ш	_ 0	×
Co	nfiguration F	Routing ID	Generate	Simuration						1
	Routing ID Wi	indow								
	CANI CAN4	CAN7								
		Sour	e		_			Destination		
	Symbol A/C	005	Data=1 45	Data-2 96		CAN1 O	CAN4		-	
	ACC_ON	00a 010	cc 15	ьd 62		-	0			
	A/B	020 025	11 44	33 9		-	ō			
-			1						 	
-	<u>A</u> dd	<u>M</u> odit	V .	Delete	s	ymbol				
ļ										

- 7.シンボルボタン
 - ・シンボル設定ダイアログを表示します。
 - ・常に有効表示となります。

・シンボル設定ダイアログについては、「4.3.5.シンボル設定ダイアログ」を参照して下さい。

8.シンボル設定ダイアログへの ID 自動登録

ID を新たに入力した場合、新たに入力した ID がシンボル設定ダイアログに登録されて いなければ、その ID がシンボル設定ダイアログに自動的にソートされて登録されます。 ID を修正した場合についても同様です。 4.3.3.コード生成ウィンドウ

コードを生成する Source を指定し、その他 Program、Return 値、出力形式、MCU、 CPU Clock、処理時間 (Processing Time)をそれぞれ設定し、テーブル生成、

コード生成を行うウィンドウです。

🛃 Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing File Generator¥te	est.ofg]
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{C}) Generate(\underline{G}) Simulation(\underline{L}) Symbol$	I(S) Help(H)
Configuration Routing ID Generate Simuration	
Code Generation Window	
Convince Con	O char O Standard table
CANE O Judge one by one	💿 short 🛛 🗸 C Optimized table
CAN2 CAN2	
CANB route_can1_to_can1() CANB route_can1 to can4()	
CAN4	CAN1
CANS	0.014
CANT	CAN4
Source MCU	M306N0 V Program Size 243 Bytes
C C Source Code	I co MHa Table Size 0004 Buter
Output Path	
C#Program Files¥MSC¥Routing File G	Processing Time 44.7 µsec
Code generation Table generat	
Code generation Table generat	

- 1.Argument設定
 - ・コード生成を行う Source を設定します。設定することができるソースは、コンフィグ
 レーションウィンドウにおいてチェックボックスにチェックが入っているソースです。
 - ・有効表示になっている場合、押すと青ボタン表示になり、設定されたことを表します。 なお、指定することができるのは1ノードのみです。
 - ・表示されるボタンの数はコンフィグレーションウィンドウのソース側のコンボボックス
 で設定した数だけです。
 - ・コンフィグレーションウィンドウで選択したソースがあれば、デフォルトでそのソースのボタンが青ボタン表示になります。

2. Program設定

・Judge in a lump/Judge one by oneの設定を行います。これらの設定によって下部の

イメージと戻り値の各ビットの対応を表すイメージ、Processing Time が変化します。

🛃 Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing Fi	le Generator¥test.cfg]			_ 🗆 ×
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{C}) Generate(\underline{G}) Simulat$	ion(L) Symbol(<u>S</u>) Help(<u>H</u>)			
Configuration Routing ID Generate Simuration				
Code Generation Window				- 🗆 ×
Argument Program CANO Judge in a lump	Return C char	\Box	Table Standard table	
	V 💽 short	V	C Optimized table	
CAN2 route_can1_to_can1()				
CAN4 route_can1_to_can4()			L C4	AN1
CANE			CAN4	
CAN7				
Source	MCU M306N0	Program Size	243	Bytes
C Source Code C Assembler Source Code	CPU Clock 16.0 💌 MHz	Table Size	9924	Bytes
Output Path		Processing Time	44.7	μsec
C:#Program Files#MSC#Rou	ting File G	(Standard)		
Code generation	Table generation Cance	1		

「Judge in a lump/short」選択時のコード生成ウィンドウ

- 3.Return設定
 - ・出力されるコードの戻り値(char/short)の設定を行います。これらの設定によって戻り値の 各ビットの対応を表す内容とその下部のイメージが変化します。

Program が「Judge in a lump」に設定されている場合、"USER", "NM"の戻り値は MSB から 割り当てられます。 経路数が9つ以上である場合は、自動で「short」に設定されます。このとき、「char」に

変更することはできません。

4.Table設定

・Standard Table/Optimized Tableの設定を行います。

Ver1.0 では Standard Table のみ選択可能です。

Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing F	ile Generator¥test.ofg]	10	
Configuration Bouting ID Generate Simulation	tion(L) Symbol(S) Help		
Code Generation Window			
CANO CANO CANO CANS CANS		ar	Standard table O Optimized table
CAN2 CAN3			
CAN4 CAN5			CAN1
CANS CAN7			└── CAN4
route_can1_to_can1()			
Source	MCU M306N0	▼ Program Size	243 Bytes
C Source Code	CPU Clock 16.0	MHz Table Size	9924 Bytes
Output Path C:¥Program Files¥MSC¥Rou	uting File G Select	Processing Time (Standard)	22.4 µseo
Code generation	Table generation	Cancel	

「Judge one by one/char」選択時のコード生成ウィンドウ

- ・MCUの設定を行います。Ver1.0ではM306N0のみ選択可能です。
- 7.CPU Clock設定
 - ・CPU Clockは、2MHz、4MHz、5MHz、8MHz、10MHz、16MHz、
 20MHzの各値が設定できます。デフォルトは16MHzに設定されています。
 - ・CPU Clockは、処理時間 (Processing Time)を求める際に用います。
 - CPU Clockを変化させると、処理時間が変化します。

^{5.}Source出力設定

[・]C Source Code/Assembler Source Codeの設定を行います。 Ver1.0 では C Source Codeのみ選択可能です。

^{6.} MCU設定

- 8.ステータス表示
 - ・Program Size は、コンフィグレーションウィンドウにおけるDataの選択数に応じて変化します。
 - ・Table Size は、コンフィグレーションウィンドウにおけるDataの選択数に応じて変化します。
- 9. テーブル生成・コード生成
 - ・[Select]ボタンを押すと、下図のような保存先を選択するダイアログを表示します。 (ダイアログのファイル名は「target.c」になっています。) 保存先を選択後、その選択場所のパス名が「Output Path」に表示されます。

ファイル名を付けて保存	? ×
保存する場所(!): 🦳 Routing File Generator 💽 🗈 📸 🏢	
C Default.c C src_can1.c	
ファイル名(N): [target.c 保存(<u>s</u>)
ファイルの種類(II): Source File(*.c) ・ キャンセ	214

[Code generation]ボタンを押すと、設定内容を反映したコードが生成されます。
 生成された場合は、「src_[Source].c」、「src_[Source].h」というファイルが、
 Output Path に表示された場所に出力されます。

生成されなかった場合はエラーメッセージが表示されます。

[Table generation]ボタンを押すと、設定内容を反映したテーブルが生成されます。
 生成された場合は、「tbl_[Source].h」というファイルが、Output Path に表示された
 場所に出力されます。

生成されなかった場合はエラーメッセージが表示されます。

(注) [Source]: コンフィグレーションウィンドウで選択したソース名

10.[Cancel]ボタン

・[Cancel]ボタンを押すとコード生成ウィンドウは閉じられます。

4.3.4.テーブルシミュレートウィンドウ

GUI上で生成されたテーブルとCANバスログデータとのシミュレートを行うウィンドウです。シミュレートはプロジェクトをロードしているときのみ実行可能です。

🛃 Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing File Generator¥test.cfg]	
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{\mathbb{C}}) Generate(\underline{G}) Simulation(\underline{\mathbb{L}}) Symbol(\underline{\mathbb{S}}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H)} Help(\underline{H}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H) Help(\underline{H)} Help(\underline{H) Help(\underline{H)} Help(H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) \ Help(\underline{Hep(\underline{H) $	
Configuration Routing ID Generate Simuration	2
TableSimulate Window	
Read Log File Read Table File All 1 msg/sec	OK NG
Source Destination Symbol ID Data1 Data2 Can0 can1 can2	can3
Cancel	

- 1 . [Read Log File]ボタン
 - ・[Read Log File]ボタンを押すと、Standard Log ファイルを選択するファイルダイアログ が表示されます。

ファイルを開く		? ×
ファイルの場所(!):	🔁 Routing File Generator 💽 🖭 📺	Ī
Canwin.log		4
I		
ファイル名(№):	開公	0)
ファイルの種類(1):	Standard Log File(*.log)	til 🛛
		909 2000

🛃 Routing File Generator[C:#Program Files#MSC#Routing File Generator#test.cfg]	_ 🗆 ×
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{\mathbb{O}}) Generate(\underline{G}) Simulation(\underline{\mathbb{U}}) Symbol(\underline{\mathbb{S}}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H}) Help(H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) \ Help(\underline{Help(\underline{H) \ Help(\underline{H) \ Help(\underline{Help(\underline{Hep(\underline{H) $	carana ana ang sana a Carang sana ang sana a
Configuration Routing ID Generate Simuration	
TableSimulate Window	
Read Log File OK Read Table File OK NG Imag/sec	
Source Destination Symbol ID Data1 Data2 Can0 Can1 Can2 Can3	
Cancel	

- ・ログファイルを一つ選択すると、[Read Log File]ボタンの右側の矢印が黄色表示になり、 [Read Table File]ボタンが有効表示になります。
- 2.[Read Table File]ボタン
- ・[Read Table File]ボタンを押すと、テーブルファイルを選択するファイルダイアログ が表示されます。

ファイルを開く					? ×
ファイルの場所(!):	🔁 Routing File Generator	•	E	× 8-8- 8-8- 8-8-	
h tbl_can1.h					8. 1999
					1943 2743
ファイル名(№):				開((<u>o</u>)	
ファイルの種類(1):	Standard Table File(tbl_*.h)		-	キャンセル	,

・テーブルファイルを一つ選択すると、[Read Table File]ボタンの右側の矢印が黄色表示になり、[Check]ボタンが有効表示になります。

🔒 Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing File Generator¥test.cfg]	_ 🗆 ×
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{\mathbb{O}}) Generate(\underline{G}) Simulation(\underline{\mathbb{L}}) Symbol(\underline{S}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H}) Help(\underline{H) Help(\underline{H}) Help(H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) Help(\underline{H) \ Help(\underline{Hep(\underline{H) \mathsf Hep(\underline{Hep(\underline{Hep(\underline{Hep(\underline$	
Configuration Routing ID Generate Simuration	
TableSimulate Window	
Read Log File Check Check Check Check Check Check Check Check Check Check Check Check	OK NG
Source Destination Symbol ID Data1 Data2 Can0 Can1 Can2	can3
Cancel	

- 3.[Check]ボタン
 - ・[Check]ボタンを押すと、シミュレートを開始し、緑と赤のランプで結果を表示します。
 - ・シミュレート結果がOKの場合は緑のランプが点灯します。また、ソース側、デスティ ネーション側共に何も表示されません。
 - ・シミュレート結果がNGの場合は赤のランプが点灯します。NGとなっている部分の ノードが赤色のプリンク表示となり、その他の部分にはルーティング設定ウィンドウ で設定した通りに""、"-"が表示されます。

🛃 Routing File Generator[C:¥Program Files¥MSC¥Routing File Generator¥test.cfg]	
$File(\underline{F}) Edit(\underline{E}) Configuration(\underline{\mathbb{C}}) Generate(\underline{G}) Simulation(\underline{\mathbb{L}}) Symbol(\underline{\mathbb{S}}) Help(\underline{H})$	
Configuration Routing ID Generate Simuration	
🚍 TableSimulate Window	
Read Log File Check OK NG © All © 1msg/sec	
Source Destination	
Cancel	

シミュレート結果がOKの場合のテーブルシミュレートウィンドウ

🛃 Routing File Generator[C:¥Program Files¥N	MSC¥Routing File Generator¥test.cfg]	ΙX
$File(\underline{F}) = Edit(\underline{E}) = Configuration(\underline{C}) = General$	ate(G) Simulation(L) Symbol(S) Help(H)	
Configuration Routing ID Generate	Simuration	Å
TableSimulate Window		
Read Log File Read Ta	Table File OK Check OK NG C All C 1 msg/sec	
Source Symbol ID 001	Can1 Can4 Can11 User	
	Cancel	

シミュレート結果がNGの場合のテーブルシミュレートウィンドウ

ログファイル、テーブルファイルの読み込みに失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。

- 4.シミュレート方法の選択
 - ・[Check]ボタンの下にあるラジオボタンで選択します。
 - [AII]:選択したログファイルから読み込んだID・Dataを全て読み込んで 結果を表示します。
 - ・[1msg/sec]:選択したログファイルから読み込んだID・Dataを1秒間に1つずつ シミュレートします。NGとなった時点でシミュレートは停止します。 選択したログファイルから読み込んだ最後のID・Dataまでシミュレート できた場合は、シミュレート結果はOKとなります。
- 5.ソース側表示
 - ・シミュレート方法が[All]である場合
 - ・シミュレート結果がOKの場合、何も表示されません。
 - ・シミュレート結果がNGの場合、NGとなっている部分のID・Dataを表示します。
 - ・シミュレート方法が[1msg/sec]である場合
 - ・1秒毎に選択したログファイルから読み込んだID・Dataを順に表示します。
 - ・途中シミュレート結果がNGになると、その時点のID・Dataが表示されます。
 - ・シミュレート結果がOKの場合、何も表示されません。
- 6. デスティネーション側表示
 - ・シミュレート方法が[All]、[1msg/sec]のどちらの場合でも以下の表示を行います。
 - ・シミュレート結果がNGの場合は、選択されたデスティネーションのノード名が表示 されます。また、NGとなっている部分に赤色のブリンク表示を行います。その他の 部分にはルーティング設定ウィンドウで設定した通りに""、"-"が表示されます。
 - ・シミュレート結果がOKの場合は何も表示されません。
 - ・ノード数が5以上の場合は下部に表示される水平スクロールバーを動かすと、同調して他の ノード名を表示します。
- 7.[Cancel]ボタン
 - 「1msg/sec」でシミュレートを実行中に押下すると、シミュレートが中断されます。
 ソース側には、中断される直前に表示されていたID・Dataがそのまま表示されます。
 デスティネーション側には何も表示されません。
 ー旦シミュレートを中断させると、シミュレートを再開させることはできません。

4.3.5.シンボル設定ダイアログ

SID Symbolを定義するダイアログです。 [ADD]ボタンは常に有効表示で、[MODIFY]ボタン、[DELETE]ボタンは デフォルトでは無効表示になっています。

DB	FINE SYMBO)L			×
	SID Symbol]			
		Cou	nt SID Code	Symbol Nan	ne
		1 2 3 4 5 6 7 8	001 002 005 010 012 015 020 025	MET A/C ACC_ON Door G/W A/B	
	Ad	а	Modify	Delete	Add to Table
			ОК	CANCEL]

- 1.シンボルリスト表示
 - ・入力された SID Code がソートされた状態で表示され、それぞれの Symbol Name も 表示されます。Count は1、2、3、…と順に表示されます。
 また、Routing ID Window において ID の追加・修正を行うと、その ID がこのリストに 登録されていなければ、自動的に登録されます。
- 2.シンボルの追加
 - ・[ADD]ボタンを押すと、次のようなダイアログが表示されます。

A	dd SID Syn	nbol		×
	Count 6	SID Code	Symbol Name	
		ОК	CANCEL	

- ・ SID Code は16進数または2進数で入力します。16進数の場合は最後にHまたはh をつけて入力します。
- ・ SID Code を入力できる範囲は [0,7ffH]です。
 入力された SID Code が、が、文字、10進数表記、未入力、 [0,7ffH] 以外の
 範囲の値をとっている場合に [OK]ボタンを押すとエラーメッセージが出ます。
 入力した SID Code が重複している場合はエラーメッセージが出ます。
- ・Count には、現在シンボルダイアログ内に入力されているシンボル数に1加えた値が 表示されています。
- Symbol Name は、半角で15文字以下の範囲で設定します。
 半角で16文字以上入力したり、未入力の場合に[OK]ボタンを押すとエラーになります。
- ・このダイアログで[CANCEL]ボタンを押すと入力した値は破棄されます。
- 3.シンボルの修正
 - ・シンボルを修正する場合は、修正する行を選択後、[MODIFY]ボタンを押すと、 選択した行の Count ・ SID Code ・ Symbol Name がダイアログに表示されますので、 このダイアログ内で修正を行って下さい。ただし SID Code は最後にHがついた状態 で表示されます。

DEFINE SYMBC)L			×
SID Symbol				
	Count	SID Code	Symbol Name	
	1	001 002	MET	
	3	005	A/C	
	4	010	ACC_ON	
	5	012	Door	
	6	015	G/W	
	2	020	A/R	
	°	020	A/D	
	I			
Ad	d	Modify	Delete	Add to Table
		ок	CANCEL	

[MODIFY]ボタンを押す

Modify SID	Symbol		×
Count 3	SID Code 5H [HEX : XXXH BIN : X	Symbol Name A/C	%
	ОК	CANCEL	

- ・ダイアログの中で SID Code ・ Symbol Name の修正を行い、[OK]ボタンを押すと、
 修正した値が適していれば、ソートされて入力されます。値が適していない場合に
 ついては、「2.シンボルの追加」を参照して下さい。Symbol Name に関する制限
 についても同様です。
- ・[CANCEL]ボタンを押すと、修正した値は破棄され、元の値が表示されます。
- ・[OK]ボタン、[CANCEL]ボタンのどちらを押しても、[MODIFY]ボタン、 [DELETE]ボタンは共に無効表示になります。
- 4.シンボルの削除
 - ・削除する行を選択後、[DELETE]ボタンを押すと確認メッセージを表示します。
 そのメッセージに対して[OK]を選択すると、そのシンボルが削除されます。
 [CANCEL]を選択すると削除されません。
 - ・[DELETE]ボタンを押して確認メッセージで[OK]を選択しても[CANCEL]
 を選択しても、[MODIFY]ボタン、[DELETE]ボタンは共に無効表示になり ます。



SID Symbol			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	Count	SID Code	Symbol Name	
	1	001	MET	
	2	002		1
	3	005	A/C	1.
	4	010	ACC_ON	
	5	012	Door	
	6	015	G/W	
	7	020		
	8	025	A/B	
	. 1			
Ad		Modify	Delete Adi	d to Table

[DELETE]ボタンを押し、確認メッセージで[OK]を選択

DEFINE SYMBO)L			×
SID Symbol]			
	Count	SID Code	Symbol Name	
	1 2 3 4 5 6 7	001 002 010 012 015 020 025	MET ACC_ON Door G/W A/B	
Ad	Ы	Modify	Delete	Add to Table
		ОК	CANCEL	

- 5.Routing ID Windowへの登録
 - ・行選択を行った後、[Add To Table]ボタンを押すと、選択した SID が Routing ID Window のソース側にソートされて挿入されます。ただし、ID のみの挿入 となりますので、この ID に対して Data を入力する場合は修正作業を行って下さい。 (修正作業は、「4.3.2 ルーティング設定ウィンドウ-5.ID・Dataの修正」 を参照して下さい。)

- 6.[OK]ボタン・[CANCEL]ボタン
 - ・[OK]ボタンを押すと、シンボル設定ダイアログが閉じられ、それまでに行った 追加・修正・削除の結果が有効となり、他のウィンドウに反映されます。
 - ・[CANCEL]ボタンを押すと、シンボル設定ダイアログが閉じられ、それまでに 行った追加・修正・削除の結果は全て破棄され、ダイアログの内容はダイアログを 表示する前の内容に戻ります。

5. メニューとツールバーの説明

5.1.「File」メニュー

- (1) ^rNew」
 - ・新しいプロジェクトを作成します。「New」は常に有効表示になっています。

・他のプロジェクトをロード中に選択した場合には、新しいプロジェクトを作成する前に このプロジェクトを保存するかどうかのメッセージが表示されます。他のプロジェクト をロードしていない場合には、メッセージは表示されません。

New	×
?	Do you want to save a current project before you start to make a new one?
	<u>(11,12,10)</u> しししえ(N) キャンセル

- ・「はい」を選択すると、現在ロード中のプロジェクトを保存してから新しいプロジェクト の作成に取り掛かります。
- ・「いいえ」を選択すると現在ロード中のプロジェクトを保存しないで新しいプロジェクト を作成します。
- ・「CANCEL」を選択すると、新しいプロジェクトの作成を中止します。
- ・上のメッセージにおいて、「はい」または「いいえ」を選択すると、ファイル名選択ダイア ログが表示されます。このダイアログにおいて、新しく作成するプロジェクトの名前(コン フィグレーションファイル名)を入力し、保存先を選択します。

ファイル名を付けて保存	Ŧ				? ×
保存する場所(1):	🔄 🔁 Routing File Generator	-	1	0-0- 0-0- 0-0-	×
🛤 test.cfg					4
					9439 4764
, ファイル名(N):				保存(s)	
コーイルの話手術でつい				1417-22	
ノアイルクノ作里尖貝(上):	Configuration File(#.cfg)			キャンセル	3
					1000

- ・ファイル名を入力して、「保存」を選択すると、それまでの画面の設定は破棄されて、
 全てのウィンドウが閉じられます。そして再度ウィンドウを開くと全てのウィンドウが
 デフォルトの設定で表示されます。また、タイトルバーにはこの新規プロジェクトの
 パス名が表示されます。
- ・「CANCEL」を選択すると、新しいプロジェクトの作成を中止します。
- ・新しく作成されるファイルは、コンフィグレーションファイル(.cfgファイル)になり
 ます。ファイル名を入力した時点で、拡張子(.cfg)をつけずに「保存」を選択すると、
 生成されるファイル名の最後尾に、拡張子(.cfg)が自動的に付加されます。

(2) Load

- ・既存のプロジェクトを読み込みます。「Load」は常に有効表示になっています。
- 「Load」を選択すると、ファイル名選択ダイアログが表示されます。この
 ダイアログにおいて、新しくロードするプロジェクトの名前(コンフィグレーションファイル名)を選択します。
 - (注)他のプロジェクトをロード中に新しいプロジェクトをロードすると、それまで
 ロードされていたプロジェクトは自動的に保存されます。
- ・新しくロードするプロジェクトを選択すると、それまでの画面の設定は破棄されて、 全てのウィンドウが閉じられます。そして再度ウィンドウを開くと全てのウィンドウ が新しくロードしたプロジェクトの設定で表示されます。またタイトルバーにはこの 新しくロードしたプロジェクトのパス名が表示されます。
- ・「CANCEL」を選択すると、新しいプロジェクトのロードを中止します。
- (3) 「Save」
 - ・現在のプロジェクトを保存します。「Save」はプロジェクトをロードしている場合に有効表示になります。
 - ・選択すると、現在ロードしているプロジェクトに設定が上書きされます。

(4) Save as

- ・現在のプロジェクトの名前を変更して、現在のプロジェクトを保存します。 「 S a v e a s」はプロジェクトをロードしている場合に有効表示になります。
- ・選択すると、ファイル名選択ダイアログが表示されます。このダイアログにおいて、新し く保存するプロジェクトの名前(コンフィグレーションファイル名)を設定します。

ファイル名を付けて保ィ	字			? ×
保存する場所(1):	🔄 Routing File Generator	-	1	
a) test.ofg				
」 ファイル名(N): ファイルの種類(T):	Configuration File(#.ofg)		[保存(<u>S</u>) キャンセル

- ・新しく保存するプロジェクトを選択して「保存」を選択すると、それまでの設定が新しいプロジェクトとして保存されます。また、タイトルバーにはこの新しく保存したプロジェクトのパス名が表示されます。
- ・「CANCEL」を選択すると新しいプロジェクトの保存を中止します。
- (5) ^rClose」
 - ・現在のプロジェクトを閉じます。「Close」はプロジェクトをロードしている
 場合に有効表示になります。選択すると、メッセージが表示されます。

Close		х
?	Do you want to save a current project before you close it?	
	「おいの」 いいえ(N) キャンセル	

- ・「はい」を選択すると、現在のプロジェクトを保存してから閉じます。
- ・「いいえ」を選択すると、現在のプロジェクトを保存せずに閉じます。変更した 内容は保存されません。
- ・「CANCEL」を選択すると、現在のプロジェクトを閉じることを中止します。

(6) Read Log File

- Standard Log ファイル (ベクター社製CANalyzerのロギングファイル)を読み
 込み、ルーティング設定ウィンドウのソース側にID・Dataを登録し、デスティネーション側には"-"(無効)が登録されます。「Read Log File」
 はルーティング設定ウィンドウが表示中である場合に有効表示になります。
- ・選択すると、Standard Log ファイルを選択するファイルダイアログが表示されます。

ファイルを開く					? ×
ファイルの場所(!):	🔁 Routing File Generator	•	E	0-0- 0-0- 0-0-	
😫 Canwin.log					
I					
ファイル名(N):				開<((_)	
ファイルの種類(<u>T</u>):	Standard Log File(*.log)		•	キャンセル	
					0000

- ・ログファイルを選択すると、そのログファイルから使用されているID・Dataを全て
 読み込み(Dataは選択数に応じて読み込みます)、ルーティング設定ウィンドウの
 ID・Dataに追加登録します。この時「Read Log File」選択
 前まで表示されていたID・Dataは全て消去されます。
- ・「CANCEL」を選択すると、ログファイルの読み込みを行いません。

(7)「Exit」

・Routing File Generator Ver.1.0を終了します。 選択すると、確認メッセージが表示されます。



- ・「OK」を選択すると、全てのウィンドウが閉じられ、Routing File Generator Ver.1.0を終了します。
- ・「CANCEL」を選択すると、Routing File Generator
 Ver.1.0を終了せずに、現在のプロジェクトの編集に戻ります。

5.2.「Edit」メニュー

- (1) [「]Undo」
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて、ID・Dataに対してCutまたはPasteを
 行っていた場合、選択すると元の状態に戻します。
- (2) ^rRedo_J
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて、「 Undo」(元に戻す)を行った後に、やり直し を行います。
 - ・「Undo」を行った直後のみ有効です。
- (3) ^rCut」
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて、選択した行のID・Dataをソース側から切り取り、 有効・無効設定をデスティネーション側から切り取ります。
 - ・「Cut」を選択した後に「Paste」を選択すると、切り取られた値がそれぞれ入力されます。
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて一行選択(追加用の最下位行を除く)を行った場合に 有効表示になります。
- (4) ^rCopy」
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて、選択した行のID・Dataをコピーし、有効・無効 設定をコピーします。
 - ・「 C o p y 」を選択した後に「 P a s t e 」を選択すると、切り取られた値がそれぞれ入力されます。
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて一行選択(追加用の最下位行を除く)を行った場合に 有効表示になります。

- (5) 「Paste」
 - ・「Cut」を選択後に選択すると、切り取られたID・Dataをソース側に挿入し、切り 取られた有効・無効設定をデスティネーション側に挿入します。
 - ・「Copy」を選択後に選択すると、コピーされたID・Dataをソース側に挿入し、 コピーされた有効・無効設定をデスティネーション側に挿入します。
 - ・「Redo」を選択後に選択すると、切り取られた、またはコピーされたID・Dataを ソース側に挿入し、切り取られた、またはコピーされた有効・無効設定をデスティネーショ ン側に挿入します。
 - ・ルーティング設定ウィンドウにおいて一行選択(追加用の最下位行を除く)を行い、「Cut」 または「Copy」を選択した後、もしくは「Redo」を選択した後、有効表示になります。
- (6) ^rRenameNode」
 - ・選択するとノード名を設定するダイアログが表示されます。ダイアログと操作の説明については、「4.3.1. コンフィグレーションウィンドウ 2. ノード名設定」を参照して下さい。
 ・コンフィグレーションウィンドウ・コード生成ウィンドウ・テーブルシミュレートウィンドウのうち、少なくとも一つのウィンドウが表示されている場合(最小化されている場合も含みます)に有効表示となります。

5.3.「Configuration」メニュー

- (1) Node Configuration
 - ・コンフィグレーションウィンドウを表示します。コンフィグレーションウィンドウが表示
 されている場合は、コンフィグレーションウィンドウがアクティブになります。
 - ・コンフィグレーションウィンドウについては「4.3.1. コンフィグレーションウィンドウ」
 を参照して下さい。
- (2) ^rTable Configuration
 - ・ルーティング設定ウィンドウを表示します。ルーティング設定ウィンドウが表示 されている場合は、ルーティング設定ウィンドウがアクティブになります。
 - ・ルーティング設定ウィンドウについては、「4.3.2. ルーティング設定ウィンドウ」を参照 して下さい。

5.4.「Generation」メニュー

- ・コード生成ウィンドウを表示します。コード生成ウィンドウが表示されている場合は、
- コード生成ウィンドウがアクティブになります。
- ・コード生成ウィンドウについては「4.3.3. コード生成ウィンドウ」を参照して下さい。

5.5.「Simulation」メニュー

・テーブルシミュレートウィンドウを表示します。テーブルシミュレートウィンドウが表示
 されている場合は、テーブルシミュレートウィンドウがアクティブになります。
 ・テーブルシミュレートウィンドウについては「4.3.4. テーブルシミュレートウィンドウ」を
 参照して下さい。

5.6.「Symbol」メニュー

- ・シンボル設定ダイアログを表示します。
- ・ルーティング設定ウィンドウが表示されている時のみ有効になります。
- ・シンボル設定ダイアログについては、「4.3.5.シンボル設定ダイアログ」を参照して下さい。

5.7.「Help」メニュー

(1) [「]Manual」

・マニュアル(.pdf ファイル)が表示されます。このマニュアルを見るためには Acrobat Reader が必要です。Acrobat Reader がインストールされていない場合はこれをインストールして下 さい。

マニュアルのオープンに失敗した場合はエラーメッセージが表示されます。

(2) 「About」

・選択するとバージョン情報ダイアログが表示されます。

Version (Routing File Generator)		×
	Routing File Generator Version 1.0 Copyright (C) 2000	OK

5.8. 「Configuration」ボタン

 ・コンフィグレーションウィンドウを表示します。コンフィグレーションウィンドウが表示 されている場合は、コンフィグレーションウィンドウがアクティブになります。
 ・コンフィグレーションウィンドウについては「4.3.1. コンフィグレーションウィンドウ」 を参照して下さい。

5.9. 「Routing ID」ボタン

- ・ルーティング設定ウィンドウを表示します。ルーティング設定ウィンドウが表示 されている場合は、ルーティング設定ウィンドウがアクティブになります。
- ・ルーティング設定ウィンドウについては、「4.3.2. ルーティング設定ウィンドウ」を参照 して下さい。

5.10.「Generation」ボタン

- ・コード生成ウィンドウを表示します。コード生成ウィンドウが表示されている場合は、
- コード生成ウィンドウがアクティブになります。
- ・コード生成ウィンドウについては「4.3.3. コード生成ウィンドウ」を参照して下さい。

5.11.「Simulation」ボタン

- ・テーブルシミュレートウィンドウを表示します。テーブルシミュレートウィンドウが表示
 されている場合は、テーブルシミュレートウィンドウがアクティブになります。
- ・テーブルシミュレートウィンドウについては「4.3.4. テーブルシミュレートウィンドウ」を 参照して下さい。

6.エラーメッセージ一覧

本製品で表示されるエラーメッセージ、警告メッセージを以下に記します。

エラーメッセージ・警告メッセージ	メッセージの内容	
Please choose one of Source.	ソースを1つ選択して下さい。	
You can't choose 3 and more data.	3つ以上データを選択することはできません。	
Please input ID.	IDを入力して下さい。	
Please input ID again.	ID を再度入力して下さい。	
You can input the ID [0 , 7ffH].	ID が入力できる範囲は0以上7ffH以下です。	
Inputted Data are unusual!!	入力されたデータは異常です!!	
(HEX:XXXH BIN:XXX)	(16進数もしくはバイナリーデータでIDは	
	入力して下さい)	
These ID and Data are already used.	入力した ID と Data はすでに使われています。	
This ID is already used.	入力した ID はすでに使われています。	
File Open Error.	ファイルのオープンに失敗しました。	
These ID and Data are already used.	入力した ID と Data はすでに使われています。	
Are you all right?	よろしいですか?	
This ID is already used. Are you all right?	入力した ID はすでに使われています。	
	よろしいですか?	
Users Manual Open Error	マニュアルのオープンに失敗しました。	
You can't use the same name. Please input the name	ノードに同じ名前を使用することはできません。	
of this node again.	再度ノード名を入力して下さい。	
Please input the name of this node.	このノードの名前を入力して下さい。	
You can't input any name made up 7 and more	7文字以上の名前を入力することはできません。	
letters.		
You can't add any ID and Data.	これ以上 ID と Data の追加はできません。	
Create File Error	ファイルの作成に失敗しました。	
Format File Read Error(default.c)	フォーマットファイル (default.c) の	
	読み込みに失敗しました。	
Please input the name of this node again.	このノードの名前を再度入力して下さい。	

エラーメッセージ・警告メッセージ	メッセージの内容	
You can define the Symbol Name within 15 letters.	シンボルの名前は15文字以下で定義することが	
	できます。(シンボルの名前は16文字以上で定	
	義することができません。)	
You had already defined the symbol that has this	この名前を持つシンボルがすでに定義されていま	
name.	<i>च</i> .	
You can define the SID Symbol [0 , 7ffH].	SID Symbol が定義できる範囲は 0 以上 7ffH 以下	
	です。	
Please input SID Code and Symbol Name.	SID Code とシンボル名を入力して下さい。	
Please input SID Code.	SID Code 入力して下さい。	
Please input Symbol Name.	シンボル名を入力して下さい。	
This Code is already used.	この Code はすでに使われています。	
Log File Read Error.	ログファイルの読み込みに失敗しました。	
Log File Open Error.	ログファイルのオープンに失敗しました。	
Table File Load Error.	テーブルファイルのロードに失敗しました。	
Please modify names of Source or Destinations.	ソース名またはデスティネーション名を修正して	
	下さい。	
Inputted ID is unusual!!	入力された ID は異常です!!	
(HEX:XXXH BIN:XXX)	(16進数もしくはバイナリーデータで ID は	
	入力して下さい)	
These ID and Data are already used.	入力した ID と Data はすでに使われています。	
Please change them.	変更して下さい。	
This ID is already used.	入力した ID はすでに使われています。	
Please change this.	変更して下さい。	
You can input the Data-1 [0 , ffH].	Data-1が入力できる範囲は0以上 ffH以下です。	
You can input the Data-2 [0 , ffH].	Data-2が入力できる範囲は0以上 ffH以下です。	
Please input Data-1.	Data-1を入力して下さい。	
Please input Data-1 again.	Data-1を再度入力して下さい。	
Please input Data-2 again.	Data-2を再度入力して下さい。	

7.出力ファイルの説明

作成中(2000年9月18日現在)

8. 関数の使用方法

作成中(2000年9月18日現在)